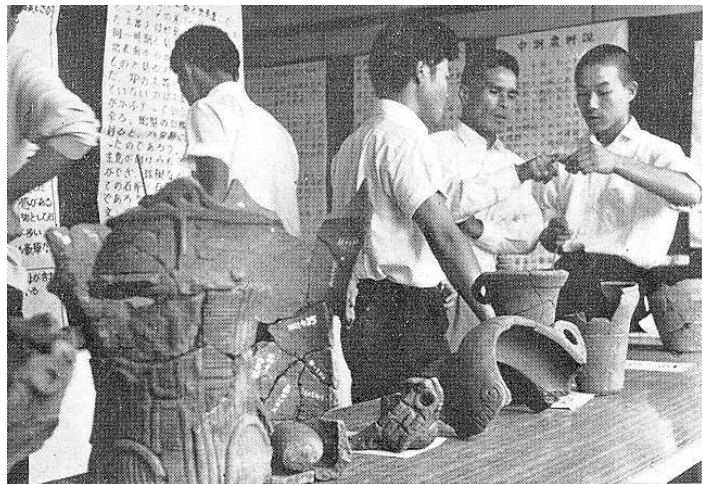




校友 15.

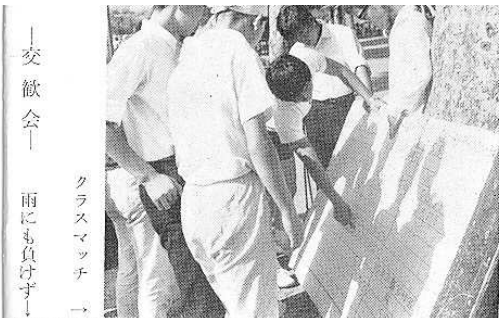
松本深志高等学校





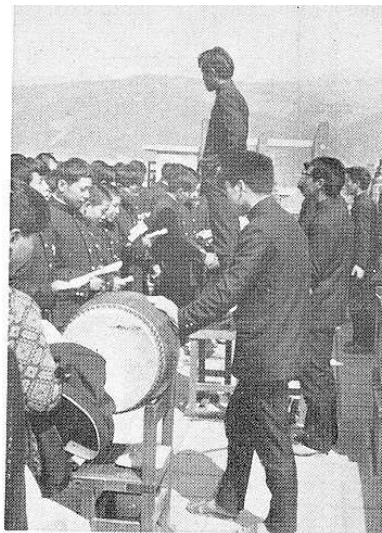
先生わかりますか？

とんぼ祭



→ 交歓会 ←
雨にも負けず！

クラスマッチ



↑太鼓叩けど歌わず

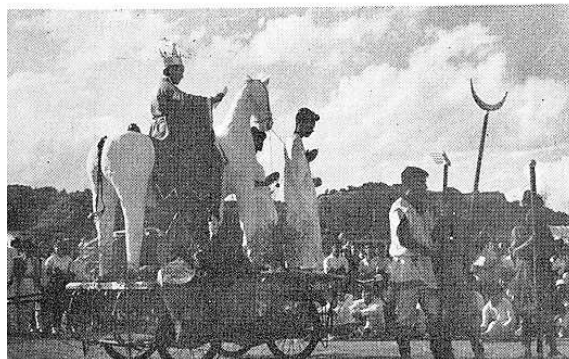
↓時間一杯！さあどうなる！



↑深志幼稚園

←イヤー！止めろ

モッチンルター
成名山岸↓





→ マラソン出発・勇しいねえ
マラソンラストランナー



モンキーダンス？関係あるの？

似てるわー！

↓ 終りを告げるトンボ祭



学生の店

深志明倫堂

TEL ② 4980

カラーがいっぱいタノシイおみせ

カラー
シャシンの **カクテ**

フンドウチヨウ TEL 3-2089

一平では松坂牛を
使っております

ビフテキ



☆ 美しさを創る

★ シックなセンス
そして
モダンなセンス
いつもあなたの装いをみつめ
心ゆくまで作る
カタセオリジナルモード



会社本部 TEL 281-2547



楽しいお買物はオジャンコーナーで

初代遠洲屋兵助 創業150年

事務機械・スチール家具・事務用品・文房具
帳簿・印刷・ファイリングキャビネット



株式
会社

遠 兵

本 社 第1販売課・第2販売課・経理課・企画課・業務課
技術課・印刷課・事務機センター
松本市上土町227番地(日生ビル前)
TEL(代表) ②6350 夜間宿直用 ②6351
本町店(高級文具事務用専門店)
松本市本町1丁目11番地 TEL ②6353

コンパの御用は

由上青果店

同窓会館上

昭和41年度

東京主要8大学入学案内(願書)
当店では41年度受験生のために下記
大学の願書を取り扱いますのでご利用下さい。

慶応大学 日本大学
明治大学 早稲田大学
中央大学 法政大学
立教大学 専修大学

★発表日は12月上旬～1月中旬
★定価は未定(昨年60～80円)

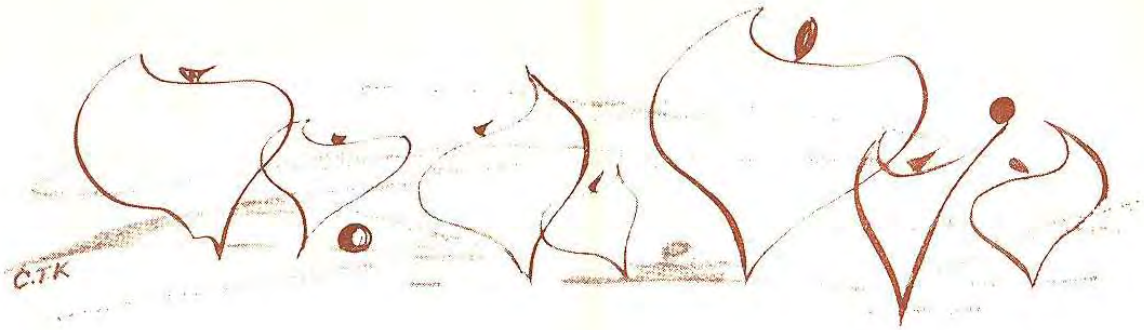
株式
会社 鶴林堂書店

松本市大手3丁目3番2号
TEL 代表 ②～5340

予約は2階売場で受付致します

珈 琲

ま る も



校友第十五号(通卷百五号)目次

表紙 中野幹夫
 口絵写真 山岸彌先生
 写真提供 鎌倉先生・望月先生・小松(一)先生
 写真同好会・その他
 カット 榛葉 茂・水沢千秋・その他

平常心是道…………… 学校長 赤羽 誠 (二)
 真の深志生たれ…………… 生徒会長 梅津博幸 (四)

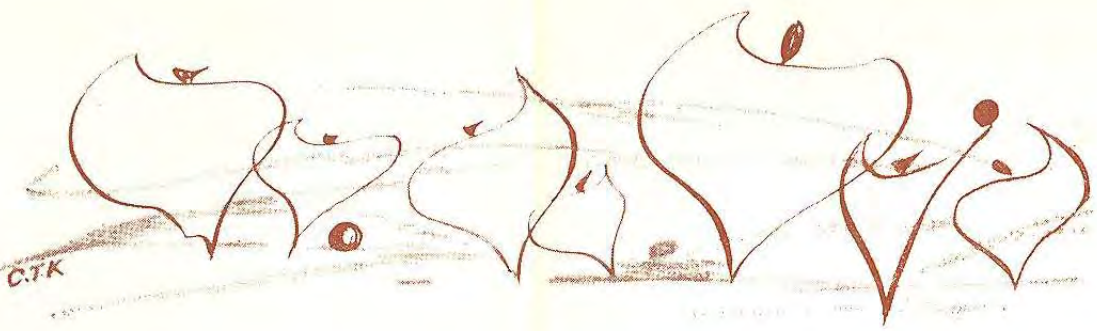
あゆみ…………… 編纂委員会 (七)
 委員会便り…………… (八)

論壇
 随筆
 とんぼの生態…………… 小池 光典 (一三)
 深志について…………… 井垣 武幸 (一七)

随想
 随筆
 亮に勝つ者——新しき随想——…………… 山口 力 (一八)
 水と私…………… 三講美知子 (二二)
 自分を大切にする…………… 津崎由美子 (二二)
 デミアン小惑…………… 小林 久子 (二三)
 「太陽がいったばい」を観て…………… 飯森真喜雄 (二五)

随紀
 夜行軍…………… 佐藤 宏 (二八)
 九州一人旅…………… 垂沢 久人 (三三)
 サッカーと私…………… 平林圭介 (四一)
 平林校長先生を送る…………… 宮脇昌三 (四四)
 僕の平林先生像…………… 細野政男 (四五)
 深志を離れてみて…………… 平林照雄 (四七)

詩
 夕ぐれ…………… 丸山三恵子 (五一)
 雨あがり…………… 土橋 建一 (五一)
 詩三篇…………… 田口 昭 (五二)
 詩二篇…………… 平林 知 (五三)



小特集

第八回交歓会……………編纂委員会（五四）

徒歩隊……………清水 哲夫（六一）

寄稿

無教会キリストのすすめ……………小山 洋（六四）

浪花節と私……………常盤欣司（六八）

峠の茶屋……………編纂委員会（七二）

研究

国際語としてのエスペラント……………松尾 至（八二）

萩原朔太郎研究……………齊藤 裕（八八）

——とんぼ祭記念講演——

動物研究室の裏窓……………犬飼哲夫（九六）

特集

十八回とんぼ祭

第十八回とんぼ祭の反省……………（一〇五）

座談会……………（一一二）

九十周年への提言……………（一二六）

九十周年に当って……………宮島逸郎（二二八）

合同協議会回顧（学芸部運動部）……………（一三〇）

創作

若き心……………小池光典（二六二）

青春讃歌……………請地嘉明（二六八）

悲しき名を負う者……………流（二七五）

白菊の悲劇……………佐藤 宏（二七九）

寸言集……………（二八七）

編集後記……………（二〇七）

平常心是道

学校長 赤

羽

誠

無門関は禅の問答を記した書である。友人のすすめもあって、秋燈下これを読み、感慨深きものがあるので、いささか書き記してみたい。この書の第七則「趙州洗鉢」には次のようなことが出ている。

趙州、因僧問、某甲乍入叢林、乞師指示、州云、喫粥了也末、

僧云、喫粥了也、州云、洗鉢盂去、其僧有省。

即ち、趙州從諗禪師のところへ一僧がやってきて問うた。僧「私は禅堂の新参者でございます。どうか老師の御指導と御教示をお願いいたしたうございます。」趙州「今朝のかゆごはんをたべたかね。」僧「はい、いただきました。」趙州「おわんをきれいさっぱり洗っておきなさいよ。」そこで、この僧は悟るところがあった、ということである。

趙州從諗禪師は、その筋の伝記によれば、唐の乾寧四年寂、当時禅宗の大黒柱たりし人、「趙州の門風天下に振う。聞く者皆悚然として信伏す。」と記されている。

禅林においては、起床、洗面、食事、参堂、坐禅、就眠にいたるまで、すべて修養、修練の機ならざるはなく、その一つ一つにわたって極めて厳しいものがある。

無門関の著者、無門慧開和尚(約七百年前南宋の人)は、右の趙州洗鉢に添えた評唱の中に「ただ手を拱いて讚歎するばかりだ。かかる時かかる場で、もしもこの僧がこのようなゆきとどいた教示を得て省悟し、真ものをつかまえないならば、大梵鐘の音をきいて、甕かの音だと誤るようなものだ」と述べている。

さて、「それならお前の茶碗をきれいに洗っておきなさいよ。そのとき僧の心の中に悟りの光が閃きた。」という箇に過ぎた表現に対して、我々はまことに当惑してしまふ。このままでは悟りなるものの当体かはっきり出てはこない。由来禅門においての問答は、いわば体験と体験の体当りの記録であって、我々の知的認識によって了解される論理の表現ではないとされている。むしろ知解は、悟りへの障害となる妄想邪見として、極度に排斥されている。表現の簡潔についていえば、体見が次第に高まれば、表現は次第に退化して、遂には極微の一点に到達する。かかる世界を語黙超絶とか不立文字と名づけているようである。

禅書の随処に「茶碗を洗うこと」のほかは、「蠟燭の火が消えた」「鼻をつままれた」「親指を立てた」等変てつもないあたりまえの日常の体験が、悟達の機縁となり得たという記録が見えており、そうした来機か悟道の要諦として成立しているかに見える。それによって今迄の苦悩や煩悶をのり越えた、広広とした心境が生れいて来るといのである。いわば、こうした平凡道に徹するところに、人間形成の真諦がある。「喫粥したか」という問は、かかる平凡に徹する味わいを「喫したか」といつているのではあるまいか。

我々はこのように承知するとして、果して我々の日常生活の上に、かかる世界は無縁なものであろうか。「平常心是道、日々是好日、朝々抱仏而起、夜々抱仏而寝」。試みにこの句の仏に代えるに、真理なり真実の語を置いてみたらどうであろうか。日常を粗末に言葉をもみだりにして、人を害い我をも汚染する者であっても、真実を願ひ真理を求めないものがあるであらうか。

「著せざるが故に清浄、清浄なるが故に著せず。」洗鉢は著せざること、即ち臭味、執着、慢心等の心を排除することを意味していると思われる。常住にかかる未熟な心の臭いを洗いおとすことに心掛けたならば、我々はどれほど

省りみて、すみやかなことであらう。

深志のこの丘に、東から西から南北から集う者、禪道修業の叢林ならずとも、学堂今や秋色満ち、落葉は地上に散り敷かんとしている。汝、何を求め、營々として何事の上にとまんとするや。先進より譲り受けたるは何、伝え残さんとするものは何。

秋夜、ひとり無門関をひもどきて思う。

(如天、稲富尚師の解説による)

真の深志生たれ

生徒会長 梅 津 博 幸

深志での三年間、あつという間に過ぎてしまった。なんと短かかったことだろう。卒業を間近に控えた今、深志での三年間の生活を通して、私を感じ考えて来た事を述べてみたい。深志について私が言いたい事は二つある。その一つは現在の深志についてである。今年の講演会で犬飼先生が次のような話をされた。「深志という学校は、昔から先生と生徒とのお互いの結びつきによって発展し、成長してきた。先生と生徒とがお互いに信頼し合っているところが深志の良さだ」と。この事は、どの先輩に会っても必ず聞かされる言葉です。ではいったい今の深志はどうなのか。私は今の深志において先生と生徒との信頼というものが欠けているように思えてならない。その理由として現在の我々

の事を考えてみたい。今の我々には、先生方からの全信頼を負うだけの資格がないと思う。先生方が安心してまかせられるだけのものがないのではなからうか、日頃の勉強、生徒会を問わず、今の我々には何かいかげんなところがありはしないだろうか。いかげんなところと言うよりむしろ低級なエゴと言った方が良いと思うが、自分の事しか考えず、自分勝手に振るまっている人が多くなりすぎている現在である。

深志という学校は素晴らしい学校である。九十年になる伝統の上に立脚し、良い先生に見守られ、良い生徒が集っている。しかも規則などというものは一つもなく、自由にいろいろなことが楽しめる。又何か一つの事(例えばとんぼ祭)をやるという時などは、深志生は素晴らしい、団結力を見せる。何事もすべて生徒の手でやってみよう。このように素晴らしい環境に恵まれ、自由に行動できる深志とは何と良いところなのだろう。ところがこれに深志の問題がある。今年のファイアーストームの時、三年のK君はこういう意味の事を言った。「深志に入ると今までの中学生活とちがって全く自由で何をやってもおこられない。こういった中では意志の弱い者は墮落してしまふ。」と。又私の友人のAという男は、一年の時に深志生の自分勝手、利己主義に対して涙を流して怒った。ところが三年になった現在彼には一年の時の姿がほとんど見られないのである。深志は恐ろしいところでもある。深志の自由自治を一步間違えると低級なエゴイストとなってゆくのであるから。これもファイアーストームの時であるが、三年のM君は、深志生のこの無責任さを徹底的に攻撃した。又ここ一年間こういった事を深志生自身が反省するようになってきた。とかくこういった事に関して深志生は自由自治だなどと言ってくだらんうぬぼれで隠しごまかしがちだったが、最近の深志生は正直に自分たちの姿を見つめるようになってきた。このように先に述べてきたような事を反省し直して、先生も生徒もお互いに信頼し合い、結び合ってゆけば、きっと素晴らしい深志を築くことができることと思う。

第二に言いたい事は私の描いている深志の理想像についてである。現在の世の中の歪みはひどいものである。人の

誠意は踏みじられ正直者は馬鹿を見る。他人を蹴落として自分を良くしようとする。こういった現実社会の中で、深志だけは純粹に学問を、部、生徒会活動をしてほしいのです。小林有也先生の遺訓の中に「世の悪風に染むことなかれ」という言葉があります。私もこれと同じことが言いたいんです。この世知辛い世の中だからこそ高校いや深志だけは本物で純粹であってほしいのです。深志生同志の心と心の結びつき、お互いに信じ合い、愛し合う事が大事だと思ふのです。そして学問、部その他生徒会活動に対して自己に忠実に、本物を見極めるまで必死になってやってほしいのです。前にも述べましたが私は深志がどんなにひどい現実社会の中にあっても、何ものにも汚されぬ純粹な学問の殿堂であってほしいのです。私が去年生徒会を引継いだとき深志では一大転換期であった。深志生全員が深志生活を反省し、しっかりやってゆこうと決心し執行部にも大きい期待をかけたことと思いますが、その何分の一実行できたかどうか、校友諸君には本当に申し訳げがない。でも私は力いっぱいできるだけやった。誰か何と言おうと、自分のできるかぎりの力は出したつもりだ。深志の新しい方向への足がかり位は何とかつけられたのではないかと自負している。

現在我々三年生が一、二年生に言いたい事は唯一つだ。「がんばれ！がんばってせひ深志を守り、大きく発展させてくれ」と。

長い間我々に協力してくれた全校友、そして心ある指導をして下さった先生方に心より感謝し深志の発展を祈って筆を置きます。

最後に一言「一、二年生諸君ガンバレ！」

望月雅文
 応援団長 牟礼 徹
 10月25日 全校クラスマッチ



＝ 編集日記より ＝

昭和四十年年度生徒会役員

会長 梅津 博幸
 副会長 武居 敏 宮島 逸郎
 議長 藤森 千尋 有賀 俊 柳沢 和史
 応援団長 熊谷 俊明

4月3日 入学式
 5日 始業式 離任新任式 対面式
 9日 生徒会説明会
 12日 応援歌の練習始る
 19日 映画「東京オリンピック」観賞
 24日 縮小トンボ祭

27日 生徒大会、交歓会実施を可決
 28日 花見行なわれる
 4月30日 落語口演会
 5月1日 演劇部公演「恐怖」
 6月1日 諏訪清陵高校との交歓会
 10日 雨で延期となった遠足実施
 7月10日 全校クラスマッチ
 19日 合唱コンクール
 21日 夏期休業に入る
 9月1日 前夜祭
 2日 開会式 合唱コンクール 討論会 野外コンサート
 3日 祭 展覧会 落語口演 新聞批評会
 4日 ポ 展覧会 演劇 フォークダンス
 5日 展覧会 音楽 詩吟 落語
 7日 ト 運動会 フォークダンス フア
 イアストーム
 9日 閉祭式
 20日 講演会 犬飼哲夫氏
 10月21日 トンボ祭反省会
 13日 生徒会A種役員選挙
 会長 宮島逸郎
 副会長 笹井春夫 井沢 泉
 議長 田口 昭 菅野正人

Book Store

SEIKANDO

OT E 3 CH O ME

TEL ② - 2333

